

| | | | |
|---|----------------------|---|--------------|
| 課題名 | 次世代継承に向けた丹後特産物の強化・発展 | ものづくり | 丹後農業改良普及センター |
| (1) 普及指導事項（評価対象） えびいもの技術向上による収益拡大と省力・軽労化 | | (2) 普及指導対象 えびいも生産者 31 戸 （京丹後市丹後町・久美浜町・弥栄町、与謝野町） | |
| (3) 活動内容と成果 <収益向上> ・栽培研修会開催（1回）、技術情報配布（7回）、現地講習会開催（6回）により改善技術の習得を支援した。 ・特産協との共催で品評会を開催し、全生産者の状況及び課題の把握を行い、個別の伴走支援に活かした。 ・改善技術（育苗器芽出しで短期育苗、定植後不織布トンネルで初期生育確保、親芋計画的摘葉(2→0枚)で子芋葉焼け防止等)普及拡大で丹後全体が R3 より増収傾向で達成見込み。 ・産地の魅力向上を目指し、久美浜産カキ殻を安価な石灰資材として検討した結果、現行の石灰資材と同等の効果があった。 <技術導入> ・4 技術（空調服・電熱服・掘取機・電動一輪車）の導入が始まり、農家ニーズに答えたことで最終目標を前倒しで達成。さらに 2 技術（パワーアシストスーツ・除草機）も検討中。 <新たな収益> ・生産者により、出荷外品の冷凍食品（コロケ、総菜、水煮）の商品化と販路（道の駅、給食センター）ができつつある。 ・飲食店により、親芋の加工品開発（スムージー）も始まった。 | | | |
| (4) コメント | | (5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等 | |
| <要約> ①しっかり栽培をすれば収益につながる作物であるが、夏の作業が大変で機械化が進めば、もっと栽培人口も増えると思う。その課題に対して、改善していこうという意欲をととても感じた。 ②若手農業者のえびいも栽培への新規就農や規模拡大に結びつけるには、もう一段の省力化が求められるので、他普及センターでの先行実績とも連携（タスクチームの充実）が必要と考える。 ③重労働である土寄せに機械化が導入できれば、農家は楽になる。 ④今後、技術の定着、収益性の向上、増産、販路開拓への支援に | | ①②③夏期作業の省力・軽労化については、令和 5 年度に下葉切除の廃止、「高機能管理機（爪軸回転機能等）」による培土労力軽減、親株切除の廃止等の検討を行います。 また出荷作業については、機械化に加えスマート技術導入についても検討を開始します。 なお、タスクチームや農林センターの成果等の新技術については、令和 5 年度の研修会で紹介し、随時導入・普及を図ります。 ④令和 3～5 年度に取り組んだ重点活動の成果については、その成 | |

| | |
|---|--|
| <p>より、「次世代継承」が増加することを期待する。</p> <p>⑤給食への供給の取組も検討されているとのことだが、食育の観点から、学校や教育委員会等との連携を考えることもできれば、効果も資金も広がるのでは。</p> | <p>果を取り入れた経営資料等を作成し、経営相談や集落農談会等で面積拡大や担い手募集等に積極的に活用します。</p> <p>⑤「水煮」の給食センターへの供給については、教育委員会等との連携が必須と考えており、令和5年度の活動に位置付けます。</p> |
|---|--|